

# 02

## トゥルーバファーム佐賀株式会社

鹿島市音成



「農業」を「農産業」に  
収益性の高いビジネスとして展開

### キッカケ

平成30年に会社を設立し、唐津市浜玉町でレモン栽培を、鹿島市七開地区で放牧事業を行っているトゥルーバファーム佐賀。東京に本社を置く、トゥルーバアグリグループ会社で、農業者の高齢化や後継者不足が課題の中山間地域において、耕作放棄地や遊休農地を再生し、新たな付加価値を創造することをグループのミッションに掲げています。佐賀県では園芸と畜産業に参入。全国各地でのノウハウを生かしながら、農業をビジネスとして成り立たせる一歩を踏み出しています。



### 組織概要

平成15年創業のトゥルーバグループホールディングス株式会社（東京都）は、金融機関向けの動産評価をはじめ、M&A、ビジネスマッチング、近年は第一次産業を中心とした事業分野に参入しています。なかでも動産評価においては、肉用牛の評価実績で国内トップを誇り、畜産農家への経営支援も行っていることから、グループの子会社としてトゥルーバアグリ株式会社を設立。佐賀県をはじめ、大分県や宮崎県、北海道などを拠点に「農業」を「農産業」にすべくアグリビジネスを展開しています。耕作放棄地の開拓・整地から自社で行う徹底ぶり。



### 中山間地域での挑戦



#### ● 唐津市浜玉町の耕作放棄地を活用してレモンを栽培

当初は、大消費地の福岡に近い唐津市で畜産業を予定していたものの、放牧に必要な広さが確保できずに断念。取得した耕作放棄地（約1.5ha）では、国内自給率が低いレモン（品種：マイヤーレモン、リスボン）を栽培。東京都の飲食店と契約するなど都市圏を中心に出荷。

#### ● 放牧繁殖事業で鹿島市の不耕作地を活用

放牧繁殖事業を行うため約19haの農地を取得し、うち約14haは開拓済み。令和4年2月に初めて牛を迎え入れ、現在45頭の母牛を管理。令和5年の初出荷から令和7年1月までに49頭を出荷。

### つながり

「放牧の候補地を探しているときに、鹿島市から畜産業が盛んな七開地区を紹介していただきました」と藤野さん。鹿島市とは進出協定を結び、地元住民との交渉など土地取得を全面的にサポート。田舎であればあるほど、県外企業は「よそ者」として敬遠されがちですが、行政が間に入ることで地域とのやりとりがスムーズになります。「大事なのは地域住民の信頼を得ること。年に一度、七開地区の皆さんに向けて報告会も行っています」。じっくり時間をかけ、地域に根付くような気持ちで向き合うことが何よりも大切なのです。

### 耕す未来

全国トップクラスの品質を誇る佐賀県のブランド牛肉。「佐賀生まれの子牛を増やして貢献したい」と、母牛を100頭近くまで増やす予定。将来的には繁殖から放牧肥育事業まで行い、自社で一貫生産することを目指しています。「農業を産業として確立しなければ担い手は増えません。個人ではリスクが大きいことも、会社ならさまざまなチャレンジができ、雇用も生まれます」。耕作放棄地の開拓や整地も自社で行うのは、「すべての経験がノウハウとなり、他地域のコンサルティングにも活かせるから」。これからは農業を軸に、幅広い事業の展開につなげていきます。



藤野 太志さん